



アルキ・ヤコブセン  
「建物が建築になる。それが建築だ」



15-53  
736

アンチチャウ  
1950年、阪はビート（ブテ）の成功を危惧、  
スヌーピーなど、昔と昔は一派型芸能会社。  
「昔のあった、昔に育つ物があり、今世の  
なふれからカミソリでシャンパン（後）」  
アとして呼ばれていた。阪本では「アンチ  
チャウ」と、珍しきものを意味する。

元々は、コベンハーゲンのノマ製菓会社  
の社員食堂風にデザインされた。当時は  
3年誕生日だったが、1921年のマコブセン  
の死後、4年誕生日となった。

様々な新素材を使って、  
斬新なフォルムの名作椅子をデザイン  
**アルネ・ヤコブセン**  
(Arne Jacobsen 1902~1971)

コペンハーゲン生まれ。建築家、家具デザイナー。1924年から3年間、王立芸術アカデミーでアーヴィス・カーロ教授の下で壁画を学ぶ。ちょうど、ドイツの「バウハウス」の影響がヨーロッパ各地に及び始めた時代だった。デンマークでは、「バウハウス」考え方をそのまま受け入れられない現象にあったが、ヤコブセンは「バウハウス」をモデルにして受け入れていく。1925年「アーティスティック・デザイン博」に出展した作品が賛美を貰う。若い頃の才能を発揮している。

建築、内装、家具、照明器具、カトラリーなど建築や住居に関わるトータルデザインを手掛けた。素材は金屬、合成樹脂など新素材も多用。当時のデンマークでは主流だった木材利用にこだわらなかった。そのような中から柔軟な発想が生まれ、「アントニア」(1938)、「セブン・ホール」(1946)などの木製椅子が問屋に出された。

建築で有名なのがSASロイヤルホテル(エベンハーベン)。自6

内装や調度品をデザインし、その中には名作椅子の「エッダチェア」(1916-19)、「スワンチェア」(1916-19)もあった。1930年代には、コペンハーゲン近郊のベルビューベーチの純合ゾーム開発に関わり、ベルビューシアターなどを設計する。シアター専用のストラップには、中国の様子(『四出頭官帽船』(1926))のようなタイポをアンダ

スダヤ系であったため、第二次世界大戦のドイツ占領時代には「ベルビューチェア」が置かれた。

なぜ、ヤコブセンがアントチェアやエッグチェアのような名作椅子を生み出せたのか。

### 1) 新素材の開発と使用

アントニオは背と手の一体型成形合板を世界で初めて使用した精子だ。エッジニアでは、複数発泡ウレタンが使われた。これも精子に使われたのは初めてのこと。20世紀半ばになって素材研究が進み、さらには進歩の精神を持っていたフリット・ハンセン社と共に開発できたことが大きい。

## 2) フリッツ・ハンセン社の存在

ヤコブセンが発案した新鮮なデザインの椅子も、作れる人がいないと何にもならない。ヤコブセンの椅子が選ばれたのは、1872年商業のブリッジ・センセーションの協議会で開催された。新素材の使用や組合せの技術開発を協議して行なった、アントニエ等が発生した。それが大ヒット商品となり、ブリッジ・センセーションによって経営的にナップセの存在は大きい。

### 3) 家昌職人マイスターではなかった

今までの家具デザイナーが思いつかなかつた斬新なデザインを、木の伝統のあるデンマークのデザイン界においてセコブセンができたのはなぜか。それは、家具職人のマイスターではなかつたのが大きいのではないだろうか。

製作のことを加へてみると、デザインしてもこんなのは無理だら  
失思ってしまうことがあるようだ。現役の木工作家の話では、事実そ  
ういう想いになることがあるという。ヤコブセンは、建築家でデザイナー  
という立場から、園芸概念ないしデザインができたのだろう。もちろん、それは卓越した才覚をもっていたからだ。



173-14



15-15



15-15